

大会宣言

東日本大震災津波から5年が経過しました。しかし被災地域の復興は進んでいません。私たちは、子どもたちの心の変化に気を配り、教職員の支援にとりくみ、教育の復興を進めていきます。

東京電力福島第一原子力発電所事故の収束も進んでいません。子どもたちが安心して学び、安全に生活できる環境を守るため、抜本的な対策を求めるとともに、脱原発に向けたとりくみを強化しなければなりません。

4月14日、16日に発生した熊本地震では、熊本県・大分県を中心に大きな被害となっており、私たち高教組は緊急の支援金カンパ活動にとりくみました。たび重なる自然災害から命を守るための防災・減災教育のとりくみが急務です。

3月に「新たな県立高等学校再編計画」が策定されました。統合ありきの拙速な計画ではなく、今後も地域との十分な話し合いを重ねた上での合意形成を求めています。また、30人以下学級を視野に入れた「地域の学校」の存続について意見反映をしていきます。

2015年度は2年連続のベースアップが勧告され、差額支給を勝ちとることができました。しかし、4月から「給与制度の総合的見直し」が導入され、若年層は給与水準が引き上げとなったものの、多くの教職員が月例給を引き下げられました。勤務意欲が保たれる給与改善を求めて闘いを強化していかなければなりません。

学校や教職員に求められる役割が増える一方で、業務の削減は進んでいません。2015年度多忙化解消に向けた県教委との協議の場で、労働安全衛生委員会体制の確立に向けた議論が始まりました。2016年度は部活動のあり方を中心に、実効性のある労安体制を求めています。

いわて国体・いわて大会が今秋に開催されます。生徒・教職員に過重な負担がかかることのないよう、関係当局に求めています。私たち自身も教育労働者として自ら働き方を見直し、働きやすく健康的な職場を作っていくこと・ワークライフバランスの意識を高めていきましょう。

高教組の奨学金に関わるアンケート調査で、多くの青年教職員が返済への負担を感じている実態が明らかになりました。奨学金制度の問題は社会的に大きなものとなっています。経済格差が教育格差とならないよう、教育の機会均等のために、授業料の完全無償化と給付型奨学金制度の創設を求めます。

私たち岩手高教組は、日教組に結集する全国の仲間と連帯し、「教え子を再び戦場に送るな」のスローガンのもと、私たち教育現場で働く全ての教職員の権利保障を守り、子どもたちのゆたかな学びの保障につなげるため、運動を継承することをここに決議します。

2016年5月31日

岩手県高等学校教職員組合 第81回定期大会